



広い後部座席、特殊な放水装置などの工夫がたくさん！

新しくなった消防車をご紹介します

水槽付消防ポンプ自動車が18年ぶりに更新され、12月8日から常陸大宮市東消防署で運用開始しました。

通常の消防車は、水槽がついていないため、消火に防火水槽が必要になります。今回更新した消防車では、1,500ℓの水槽がついており、防火水槽から遠い現場などでも、到着後、速やかに消火活動が行えるようになっています。



更新した水槽付消防ポンプ車の新機能

注目ポイント①

**空気ボンベが背負いやすい
広々とした後部座席**

1秒を争う出動時、消防隊員は、消防車内で空気ボンベなどの装着を行います。今までの消防車では、座った状態で装備を整える必要がありましたが、今回、更新した車両では、後部座席の天井が高くなり、立った状態で装備を整えることができます。



注目ポイント②

**消火剤入りの水を放水する装置で
水量を抑えての消火を実現**

消火剤入りの水を泡にして放水することで、燃焼しているものに染み込みやすく、消火効率が上がります。また、泡で消火することで、火が燃え続ける要素の一つである酸素を遮断する効果もあります。



注目ポイント③

**消防車両本体に設置された作業灯で
夜間の火災現場でも作業しやすく**

更新した消防車両の右側面と後部には、作業現場を照らす照明が付いています。また、現場直近まで持ち運べる可搬型が1器、車両周辺を照射する作業灯等が車体に複数付いており、今までよりも夜間の火災現場で作業がしやすくなっています。

